

## 平成27年度 社会人力育成山形講座の連携取組評価

山形県内の経済団体や行政機関、それに連携校の担当教員など16人で組織する連携取組評価部会は平成27年度社会人力育成山形講座の展開状況や成果を確認するため、受講学生や地域住民らを対象とするアンケート調査結果などを詳細に分析した。また、部会委員が主な講座の現場を参観し受講状況をチェックするとともに、学生や住民から意見を聴くなどして事業全体の評価作業を行った。

27年度分の評価対象は ▼大学等の強みを発揮し、または補うような共同教育の確立について＝①社会人力育成の視点から見て各科目の内容及び山形フィールドワーク教育等の科目の配置は十分なものとなっているか ②受講者数は十分に確保されているか ③単位互換履修者数は十分に確保されているか ④受講生の出席状況と単位取得状況は、学生の受講対応として十分なものといえるか ⑤授業参観をとおしてみた受講生の発言・質問・議論は十分なものといえるか ⑥受講生アンケートから見た受講生の授業満足度と習得度は十分なものといえるか ⑦本講座は、社会人力の向上に寄与するものとなっているか ▼学生の山形県内への就労意識について＝学生は授業の中で地域との関わりを持つことによって、地域に興味を感じ、将来の就職や進学を選択において、当該地域が大きな選択肢になるような知識や経験を得ることができたかどうか ▼大学等と山形県を始めとする行政・政財界との連携について＝現在の取り組みについて、今後の展開等を含めて評価する一の各項目。

前回の26年度評価の際はこのほか、「内陸と庄内で共同教育を行うデメリット及びその克服策」「担当教員から見た提出レポート内容と試験答案の出来」についても評価対象としたが、内陸一庄内の共同教育については受講に必要な学生の交通費負担問題が支援制度の新設などで一定の解決を見たことなどから、担当教員のレポート内容に関する評価問題ともども、今回の評価作業の対象からはずした。

今回は実質的に2回目の評価作業で、評価部会委員はこれまでの反省・教訓を踏まえて、比較的、スムーズに対応することができ、共同教育のメリットや問題点について適切に分析。今後の改善を促す必要のあるケースについては、より具体的に指摘した。しかし、連携校の教員などを除けば、委員の多くは教育問題について必ずしも専門的な知識や情報を備えているとは限らないうえ、事業主体側が行った学生や地域住民を対象とするアンケート調査も深みに欠ける部分があり、さらに委員が学生らから意見を聴取する機会や時間も限定的なことから、本事業の問題点の全容を掌握することは容易でなかったことも否定できない。

だが、本事業もスタートから4カ年が経過し、共同教育の持つ意義が理解され、関係者の取り組みが大きな盛り上がりを見せつつあることは率直に評価したい。残るは28年度1カ年となったが、関係者が力を合わせ、本事業の目標の実現に向けて最後まで真摯に取り組むことを強く望みたい。

## 1. 大学等の強みを発揮し、または補うような共同教育の確立について

- ① 社会人育成の視点から見て各科目の内容及び山形フィールドワーク教育等の科目の配置は十分なものとなっているか。

年度	5段階評価 (委員回答の平均)	内 訳				
		5点 (非常に良い)	4点 (良い)	3点 (普通)	2点 (努力を要する)	1点 (非常に努力を要する)
H27年度	3.75	1	5	1	1	
H26年度	3.50		4	1	1	

### 【総括評価】

委員の評価は「非常に良い」から「努力を要する」まで、ばらけたが、評価点平均は前年度を0.25ポイント上回る3.75。開講科目が一応、量的にも質的にも学生を満足させており、しかも、まずはバランスのとれた形で組み立てられていることが委員にも一定程度まで理解されて、こうした判断につながったとみられる。ただ、開講状況報告をみると、科目によって受講者数に大きな差が出ており、しかも毎年、同じような傾向が見られ、今後、学生のニーズを踏まえて科目を組み立てる必要があるといえそう。また、本事業の趣旨に留意し、県内の魅力的な経営者の話を聴くような科目設定を考えても良いのではないかと、といった具体的な提案も委員から寄せられており、外部講師の積極的な招聘も今後の課題として検討していきたいところである。

### 【個別評価】

学生の社会人を育てるうえでフィールドワーク教育が意義深く、本県の特質や魅力、課題を学生に理解させるうえで欠かすことのできない重要な科目である、との見方が委員に浸透してきている。「県内各地域の魅力を体験できるもので、評価できる」「地域の協力や参加学生の確保に大きな課題があるにもかかわらず、これだけの科目数が用意できていることは評価できる」「受講者が入り込みやすい分野などの科目が多めに配置されている」など、委員の多くが同教育について好意的に言及しているのはその表れで、外部の関係地域住民のアンケートでも、授業感想、授業内容ともども「とても良い」「とても有益」といった感想が圧倒的多数を占めた。こうした声を聞くにつけ、学生自身も同教育に対する関係者の熱い思いは全身で深く感じたはずで、同教育を設定した意義や学生にとって受講した意義・価値を実感できたと思う。ただ、「社会人育成に大きく寄与している講座がある半面、ほとんど寄与していない講座も散見される」と厳しい指摘があったほか、リーダーシップ論や起業論関係の受講者が多かった半面、期待したほどに学生が集まらなかった科目もあり、科目配置をもう一度、整理して再構築しながら、さらに魅力アップにつなげたい。

- ② 受講者数は十分に確保されているか。

年度	評価	5点	4点	3点	2点	1点
H27年度	3.37		3	5		
H26年度	3.66	1	2	3		

### 【総括評価】

27年度の受講者数は411人。当初予定されていた科目が教員側の事情で開講中止となり、受講者減の要因となるなど、学校によって増減があったものの、一応は全体の目標の400人

を越すことができた。しかし、これまでも指摘されてきたことだが、他校に出かけて意欲的に受講する学生はまだまだ少なく、本事業と通常の自校での授業との違いや共同授業の意味合いなどについて、学生の理解が十分でない、と厳しく見る委員も少なくない。教員側でも学生の理解を促し、受講を働きかけるような指導・説明をさらに行う必要があるだろう。

【個別評価】

全体的な傾向として ●自校開催の講座は受けるが、他校での開催講座に出向くことは余り多くない ●講座によって受講者数に大きなばらつきがある ●遠隔地の大学等へ受講に来る学生のための交通費支援制度が新設されたが、この恩典を活用するケースは少ない ●短大生は学習スケジュールがタイトで時間的な余裕がないためか、積極的な対応があまり見られず、他校に受講に赴いた例は2つの短大で計2人だけー など、問題点や傾向が浮き彫りにされた。その半面、「学生自身が本講座を通常の授業と区別して考えているのか分からないため、評価するのは難しい」と判断に慎重な声もあるほか、「苦労があると思うが、最低限の受講生は確保しており評価できる」「個々の講座についての魅力の高低にもよるが、全体として十分」「必修科目との時間帯の重複も影響している。大学内での調整が行われれば、増加も見込める」など、現状に一定の理解を示す意見も出された。

③ 単位互換履修者数は十分に確保されているか。

年度	評価	5点	4点	3点	2点	1点
H27年度	3.37		3	5		
H26年度	3.80		4	1		

【総括評価】

単位互換履修者数を3年間の実績を前期分だけで比較すると、25年度49人、26年度42人、27年度31人と年々、減少してきた。目標数を設定していないため、この履修者数をどう見るか、難しいが、評価部会委員が共通して指摘しているのは履修者数が少ないうえに年々、減少しつつあること。「遠隔地の大学、短大からの受講者減で2年連続して履修者が減少しており、受講生確保に向けたさらなる取り組みを」「山形大学学生が他大学に赴く履修者人数がもう少し増えることを期待したい」など、大学自体の誘導策とともに、学生の意欲的な挑戦を求める意見が相次いだ。一方で、「これだけの履修者を確保していることは評価できる」とする意見も寄せられた。

【個別評価】

単位互換履修者数は全体として増えてきている大学もあれば、逆に突然、減少に転じ始める大学があるなど、大学によって状況はマチマチで、評価・分析は容易ではない。ただ、「ヨソの大学に行かなければ、学ぶことができないほど、本当に素晴らしい講義が準備されているのか」と他大学における設定科目の有利性・有益性に首をかしげる学生もいるといわれ、学生ニーズをどうとらえ、質的にも優れた授業をいかにして準備するか、難しさが横たわっている。だが、「直接的なメリットだけでなく、他大学に行って新しい人間関係を築いたり、自分の学校にはない学風や文化、モノの考え方などを学ぶことは、多様性を認め合う社会人力育成のうえで極めて意義深い」と強調する関係者もあり、今後、単位互換履修者をいかにして増やしていくか、質的なメリットをどう担保するかが共同教育の成果を占う一つのカギといえそうだ。

④ 受講生の出席状況と単位取得状況は、学生の受講対応として十分なものといえるか。

年度	評価	5点	4点	3点	2点	1点
H27年度	4.00	1	6	1		
H26年度	4.16	1	5			

【総括評価】

単位取得者は27年度も90%を超しており、一定の成果を挙げていると評価されよう。26、27年度の授業アンケート結果の比較をみると、受講生の目標実現度評価では5段階評価のうち26年度は3.39だったのが27年度は3.44に0.05ポイントアップしており、わずかではあるが向上した。

また、学生の受講対応の視点から考察すると、授業の達成度については教員の見方に厳しいものがあり、地域住民など関係者の間では学生の受講態度や積極性についてもシビアな評価が示され、若干の疑問符がつけられた。

【個別評価】

単位取得率は25年度88.4%、26年度90.5%で、27年度は93.4%にアップし、年々、取得率が高まっていることが具体的に裏付けされた。委員の多くは「授業に対する意欲が感じられる」「一定の評価ができる」「学生の意識は高まっていると思われる」と総じて好意的な反応を示しており、学生が講座にしっかりと対応していることがうかがえる。

また、その一方で気になるのが、学生の受講態度などに対する関係者の評価データである。授業への工夫・努力や教員の熱意など教員についての評価は26年度より高くなっているが、学生に対する評価では低下傾向が示され、授業感想で「とても良い」が73.8%から65.2%へ、学生の受講態度で「大変積極的」が40.5%から30.4%へ、授業内容でも「とても有益」という項目で64.3%が47.8%へそれぞれ低下した。単位付与の条件を満たしている、として大学側から認定されているにもかかわらず、地域住民の評価が逆に低下してきたのは、なぜか。「受講生と地域住民が接触する時間が少なく、学生の取り組み姿勢や考え方が十分に理解されなかった」「地域住民とのコミュニケーションがとれず、地域の課題を見極めることができないまま、終わった」「学生同士や地元関係者との議論が十分でなかった」など、いろいろな理由が考えられる。「評価するうえで十分なデータがなく、正確なことは言えない」と慎重な見方もあるが、ともあれ、その理由を早急に解いていくことが必要だ。

⑤ 授業参観をとおしてみた受講生の発言・質問・議論は十分なものといえるか。

年度	評価	5点	4点	3点	2点	1点
H27年度	4.12	2	5	1		
H26年度	3.57		5	1	1	

【総括評価】

委員が参観した授業について、参観者からは高い評価が得られた。評価されたのは、授業においては白熱した議論という状況ではないが、発言者の話に耳を傾け、相手の立場に立った質問など授業に取り組む受講生の態度及び担当教員側が「授業の質を高めていこうとする準備と意図」がうかがえたことであった。

そうしたことは、授業における受講生や教員の話から感じ取ることができた。受講生がフィールドワークでの共同作業やグループワークに取り組み、その体験を通じ机上では得られない体験や気付きがあるなど社会人力の向上につながる授業内容になっているため、学んだもの

は多くあったものと思われる。

【個別評価】

各委員が参観したのは授業の一部であったため、「最初の講義であり、まだ活発な議論とまでは言えなかった」との意見や「時間の制約もあり十分な討議まで至らなかった」との意見もあった。一方で、受講生の関心を引き出す教員の指導と受講生の素直な反応が見え、「議論の質は高まっていくものと評価できる」との意見もあり、講座全体を通じた受講生の成長を期待した評価となっている。

⑥ 受講生アンケートから見た受講生の授業満足度と習得度は十分なものといえるか。

年度	評価	5点	4点	3点	2点	1点
H27年度	3.87		7	1		
H26年度	3.60		4		1	

【総括評価】

受講生アンケートを見ると、授業評価は多くの項目で26年度より高くなっており、総合で5段階評価4.79と満足度は高い。委員からの意見にあるように、多くの講座は「学生の意欲に応える授業を実施している」ものと思われる。ただ、講座によるばらつきがあるとの指摘もあり、学生の授業評価をとらえながら各科目において毎年の授業内容の見直しをお願いしたい。

【個別評価】

受講生からは概ね高い評価を得ているが、教員評価の「授業の達成度」、関係者評価の「受講態度」は26年度から見ると高い評価とそれほどでもないとの評価に2極化しており、その要因について分析が必要との意見がある。

教員評価における「授業の達成度」を見ると、26年度は「よく達成」は20%、未達成との回答は無かった、27年度は、「よく達成」は50%で「やや未達成」「未達成」は20%ある。学生と教員の授業評価の相違では、「授業法」「話し方」の項目で教員は学生より厳しい自己評価をしている。一方、授業に協力した関係者の評価では、「学生の受講態度」の項目で「大変積極的」「積極的」との評価が、26年度は合わせて88.1%であったが、27年度は56.5%に低下している。教員への評価は「よく務めている」が80%と高い評価を得ている。

教員評価については受講生の変化によって生じている可能性もあり、それに対応しきれなかった教員のより良い授業としたいという意欲の表れかであるかもしれない。受講生の変化の可能性については、従来のアンケートではない、別の切り口の調査・ヒアリングなどにより分析が必要と思われる。

⑦ 本講座は、社会人力の向上に寄与するものとなっているか。

年度	評価	5点	4点	3点	2点	1点
H27年度	3.75		6	2		
H26年度	3.16		2	3	1	

【総括評価】

受講生アンケートの社会人力評価において総合における授業開始時と終了時の変化率が

114%と能力が高まったとの自己評価をしており、この数値は26年度を若干上回っている。このことから本講座は社会人力の向上に一定の効果をもたらしているとの評価ができる。

#### 【個別評価】

委員からは概ね社会人力の向上に寄与するものと評価されたが、授業によっては「受講生自体が向上を実感できないでいるものもあり、改善の余地」があるとの指摘もあった。

また、「自己分析のデータだけをもって一定の成果を挙げていると評価してよいのか」との見方や、教員・関係者の評価では「創造性」「論理的思考」など高度な能力については不足しているとの「厳しい評価である」といった意見もあった。

同じ評価の中で、学生に求めている能力として「コミュニケーション力」「主体性」「課題解決力」などが挙げられているが、いずれも授業後に伸ばしていると評価されており、教員・関係者からも本講座の効果が認められているものと思われる。本講座のみで学生に求められる全ての能力向上を図ることは難しいことであり、大学教育との関係の中で検討を行うべきものであろう。

## 2. 学生の山形県内への就労意識について

年度	評価	5点	4点	3点	2点	1点
H27年度	3.50		5	2	1	
H26年度	3.00		2	1	2	

#### 【総括評価】

授業後の学生の就労意識を見ると、全体の27%が「山形県で働きたい」「チャンスがあれば山形県で働きたい」との意識であり、山形県出身者に限って見れば、62%と高い割合となっているが、26年度は全体では38%、山形県出身者では64%であった。27年度の場合、大都市圏の企業の求人活動が活発化していることが主な数値の低下要因と思われる。

本講座は、山形を素材として授業を組み立てたもので、地域と接する機会の少ない学生にとって有益な取り組みであり、授業を受けたことにより山形県での就労意識を持つようになった学生もおり、本講座が山形に関心を向ける上で役割を果たしていると評価できる。

現在3割程度の山形県での就労意識をさらに高める方策を期待したい。

#### 【個別評価】

学生が「就職先を決定する場合、要因の一つとして挙げられるのが保護者の意見であり、県内企業を知らずにネームバリューのある企業を推薦する傾向にある」との意見もあった。学生がフィールドワーク教育で訪問した地域やプロジェクト教育などで接した企業経営者は、就職対象ではない。

本講座は、具体的な就職先を意識したものではなく、「ひとつ先の自分づくり」「社会人力の学習」「豊かな山形再発見」が目的である。その意味では成果を挙げていると思われるが、山形での就職を強く意識させるためには、「キャリア教育や大学と県内産業界が一体となった取り組み」を本講座と連動させ展開していく必要があるとの意見があった。

### 3. 大学等と山形県を始めとする行政・政財界との連携について

年度	評価	5点	4点	3点	2点	1点
H27年度	3.37		3	5		
H26年度	2.83	1		3	1	1

#### 【総括評価】

本事業は、学生の社会人力を高め、将来の山形を担う人材を育成するものであるが、事業の運営に「関係自治体や経済団体等と連携して取り組んでいる」ことが評価できる。ただ、外部委員が所属している組織・団体の「それぞれの持つ機能、特性が本事業に十分反映されているとは言い難く」、「山形講座の幅広い認知や県内就労への結びつき」という面において周知が不足しているとの意見も寄せられた。

#### 【個別評価】

「県内経済団体と高等教育機関との懇談会」など構成員が類似する会議との連携、企業採用担当部署へ向けての大学就職担当あるいはハローワークを通じての本講座の周知などの提案もあり、幅広い関係機関との連携による広報が望まれる。

また、本事業の取り組みを「産業界側から活用していく観点も大切にしたい」「引き続き関係者が連携して取り組んでいくことを期待したい」との意見もあり、委員から本事業が評価・支持されていることがうかがえ、事業終了後の「山形講座」継続の可能性や実施体制について検討することが期待される。

平成28年3月22日

山形人材育成委員会  
連携取組評価部会